



【発行所】  
群馬県森林組合連合会  
前橋市上大島町182-20  
TEL.027(261)0615(代)

【制作・印刷】  
株式会社総合PR  
前橋市元総社町936-4  
TEL.027(253)8331(代)

INDEX

新年のごあいさつ	1~4	森林組合理事研修会 開催	6~7
群馬県森林組合連合会 代表理事会長 八木原 勇治	1	森林経営管理法関連業務の実践状況	7~8
群馬県知事 山本 一太	2	令和2年度 人材育成・定着支援研修 開催	8~9
群馬県環境森林部長 岩瀬 春男	2~3	群馬県森林組合職員連盟 第71回定時総会 開催	10
関東森林管理局長 上大田 光成	3	「森林の仕事ガイダンス」東京&群馬で開催	10
全国森林組合連合会 代表理事会長 村松 二郎	4	優良素材展示会 開催	11
農林中央金庫 関東業務部長 宇都宮 正一	5	農林大創立100周年 チェーンソーを寄贈	12
		あとがき	12

新年のごあいさつ

群馬県森林組合連合会  
代表理事会長 八木原 勇治



新年あけましておめでとうございます。

平素は本会運営にご理解ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大という予期せぬ事態に見舞われた一年となりました。

世界規模での健康被害と感染拡大防止のための経済活動等自粛による先行きが不透明な生活を余儀なくされ、社会活動や日常生活様式までも一変してしまいました。今後は感染拡大の対策に配慮しつつ、森林組合系統の団結力をもって事業推進に取り組んで参りたいと思います。また、本年4月には森林組合法が改正され森林組合系統経営基盤強化に向けて、合併以外の事業譲渡、吸収分割、新設分割といった連携手法が導入されるほか、正組員資格の拡大や業務執行体制の強化策が講じられることとなります。

一昨年より運用が始まった森林経営管理制度の推進においては、我々森林組合系統が実質的な森林管理主体であることを自認し、市町村行政を支援しつつ意欲をもって制度に取り組んでいく必要があります。連合会といたしましても、この制度推進に対応する体制強化を図りたいと考えております。

こうした中、森林境界不明地や所有者不明への対応、また路網整備などの木材生産に必要な課題も多くありますが今後は、ICT技術などの活用を推進し、施業集約化と国産材安定供給体制構築を確立し素材生産量増大を目指すとともに、現在策定中の群馬県森林・林業基本計画の目標達成に向け取り組んで参ります。

終わりにこのコロナ禍が一日も早く終息し、皆様の本年のご健勝ご多幸をお祈りするとともに、森林組合系統事業への格別なるご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、新年のご挨拶いたします。

本年も宜しく願い申し上げます。

# 新年のごあいさつ

群馬県知事  
山本 一太



明けましておめでとうございます。  
群馬県森林組合連合会の皆さまには、健やかな新年をお迎えることと心からお喜び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症に加え、豚熱(CSF)の発生など、危機対応に多くの時間と資源を費やした一年でした。新型コロナウイルス感染症は秋口から新たな感染の波が全国を襲い、予断を許さない状況が続いています。今後も自然災害を含め、気候変動によりさまざまな危機管理事案が常態化すると考えております。こうした事態にしっかり対応するため、さらなる備えを進めていきます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、世界の様相を一変させました。今後もこのウイルスとの厳しい戦いが続きます。この状況下における知事の最大の使命は、県民の皆さまの健康と命を守ることです。また同時に皆さまの暮らしも守っていく必要があります。感染拡大の防止対策に全力で取り組むのは当然ですが、地域の経済活動を止めることはできません。感染防止の対策と経済活動の両立は難しいかじ取りですが、群馬県と県民を守り抜くために、何としてもやり遂げ

なければなりません。引き続き、県民の皆さまのご理解とご協力をいただき、力を合わせて、オール群馬で今回の未曾有の危機を乗り越えていきたいと思っています。

昨年12月、20年後の本県が目指す姿を描く新・群馬県総合計画の「ビジョン」を策定しました。今年、これを県政の羅針盤として「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、全ての県民が誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」の構築を目指します。

森林・林業分野においては、新たな群馬県森林・林業基本計画の策定を進めています。大胆な構造改革により、コストの縮減と収益性の向上を図り、自立した林業・木材産業の確立と県産材による自立分散型社会の実現に向けた方向性を示したいと考えています。さらに、全国に先駆けて行った、2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」を実現するための取り組みを強力に推進していきます。

群馬県森林組合連合会の皆さまには、引き続き県政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が皆さまにとって健康で幸多き年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

群馬県環境森林部長  
岩瀬 春男

# 新年のごあいさつ



新年あけましておめでとうございます。  
群馬県森林組合連合会の皆様には、輝かしい新年をお迎えることと心からお慶び申し上げます。  
近年、気象災害が

激甚化・頻発化し、令和元年の台風第19号や、令和2年7月豪雨など、毎年のように多くの犠牲者や被害が発生しています。さらに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、社会的にも経済的にも大きな打撃を受けています。

気候変動の要因とされる地球温暖化も、新型コロナウイルスの感染拡大の背景にある生態系の攪乱も、人間活動の増大が地球環境に大きな負荷をかけたことが

原因という指摘がされています。

このため、群馬県では、災害に強く、持続可能な社会を構築するとともに、県民の幸福度を向上させるため、2050年に向け、①自然災害による死者「ゼロ」、②温室効果ガス排出量「ゼロ」、③災害時の停電「ゼロ」、④プラスチックごみ「ゼロ」、⑤食品ロス「ゼロ」を合わせて達成することを目標とする「ぐんま5つのゼロ宣言」の実現に向けて取り組んでいます。

森林・林業分野においては、本県の豊かな森林を健全な形で次世代へ引き継ぐとともに、「5つのゼロ宣言」の実現に貢献するため、大胆な構造改革により、林業・木材産業のコスト縮減と収益性の向上を図り、県産材による自立分散型社会の実現に向け、大きく舵を切りたいと考えています。

また、本年4月には、改正森林組合法が施行され、森林組合は、組合間の多様な連携、正組合員資格の拡大、法人経営に関し実践的な能力を有する理事の配置や林業所得の

増大への最大限の配慮などが求められます。

森林組合連合会をはじめとする森林組合系統におかれましては、地域の森林資源を循環利用し、山元への一層の利益還元を進め、森林の有する公益的機能の維持増進を図る中心的な担い手としての重要性が高まっており、その事業活動に大きな期待が寄せられております。

県といたしましても、本県の林業・木材産業の発展のため全力で取り組んで参りますので、引き続き皆様の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合連合会の益々の御発展と皆様方の御健勝を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

# 新年のごあいさつ

関東森林管理局長  
上大田 光成



新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶申し上げます。

群馬県森林組合連合会並びに会員の皆様には、日頃より、国有林野事業の円滑な運営にご理解・ご協力をいただいております。心より御礼を申し上げます。また、森林経営計画の作成、森林施業の低コスト化、路網の計画的な整備等にも積極的に取り組まれ、民有林における森林施業の集約化を図るとともに、群馬県の林業、木材産業の発展にご尽力されておられますことに対し、心より敬意を表します。

昨年は新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、国の内外を問わず大きな影響を受けました。

国内の経済も大きなダメージを受けており、林業、木材産業においても、製材品や合板類の荷動きが鈍化し、大型製材工場の減産や原木の搬入制限などの動きが現れるとともに、木材価格の下落が顕著となりました。

このため、関東森林管理局では、売り先のないまま国有林材が伐採・搬出され、木材価格への更なる影響が出ること

を防ぐため、立木販売新規物件の一部先送りなどの供給調整の措置を行っております。秋以降には荷動きなどにも若干の変化が見られることから供給調整についても、川中での原木の在庫状況や川下での製品の動きや在庫状況等の需要動向を注視しながら、地域毎に柔軟に対応していくこととしております。

今回の新型コロナウイルス感染症の拡大は、国内の人工林資源が本格的な利用期を迎え、政府としても森林経営管理制度等の制度を整え、林業の成長産業化に取り組む中で起きております。この感染症の終息時期や最終的な影響はまだ見通せない状況にありますが、関東森林管理局では国民共通の財産である国有林を適切に管理するとともに、今回の感染症の影響を最少限に食い止め、その先の林業の成長産業化を軌道に乗せるため、皆様方はじめ業界の関係者、地域の皆様の声に耳を傾け、適時・適切な木材の供給、事業の実行に取り組んで参りますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、群馬県森林組合連合会並びに系統森林組合の益々の御発展と皆様の御健勝、御多幸を心から祈念申し上げます。

# 新年のごあいさつ

全国森林組合連合会  
代表理事会長 村松 二郎



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

平素は、弊会の業務運営につきまして特段のご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年、何と申しましても新型コロナウイルス(COVID-19)の世界

的な感染拡大という、全く予期しなかった事態に苛まれた一年となりました。

未知のウイルスによる健康被害と、感染拡大を防ぐための活動自粛措置による経済的打撃という先行きの見えない二重苦に直面するとともに、日常生活や社会活動の在り方も一変してしまいました。

この困難な中、皆様には森林組合系統の事業活動継続のため、ご支援、ご尽力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。

残念ながら今もって感染の収束は見通せませんが、この正念場を森林組合系統の結束で乗り越えていかねばならないと考えています。

そして、ウィズコロナということで、十全に感染予防に努めながら、必要な取組は進めていかなければなりません。

森林経営管理制度の着実な推進に向けては、地域の森林管理主体である森林組合系統が中心となって取り組んでいく必要があります。令和2年度から400億円に増額された森林環境譲与税を地域林業に有効に活用するためにも、市町村と連携しながら森林所有者への意向調査や、意欲と能力ある林業経営者への登録を進めているところです。

一方で、林道や路網の整備は未だ遅れており、こうした林業生産基盤を早急に整えていく必要があるほか、境界不明や所有者不明森林の増加に対し、ICT技術の活用も含めた林業イノベーションを進め、林地情報の活用による集約化・効率化が求められるとともに、伐って、使って、植えて、育てるというSDGs時代に即した国産材利用の拡大も必要です。

こうした中、昨年、森林組合法が改正され、森林組合系統の経営基盤強化に向け、合併以外の事業譲渡・吸収分割・新設分割といった多様な連携手法が導入されることとなったほか、正組合員資格の拡大や業務執行体制の強化策が講じられることとなりました。

現在、次期森林組合系統運動の基本方向のとりまとめに向け協議を進めているところですが、様々な施策・制度を活用しながら、森林組合系統の基盤強化や販売事業の強化等に向け、積極果敢な運動を展開していきたいと考えています。

また、近年、大規模災害が常態化しつつありますが、森林組合系統においても7月豪雨災害や9月の台風災害などにより、甚大な被害が発生いたしました。

被災地においては、今なお、懸命に復旧・復興を進めているところですが、被災系統への支援募金活動につきまして、大変多くのご厚志をお寄せいただきましたことに、改めて感謝申し上げますとともに、事前防災、減災に向けての緑の国土強靱化を強く推し進めていかなければならないと考えます。

さて、弊会は先月、事務所を千代田区鍛冶町に移転いたしました。

これを機に、森林組合系統の発展と我が国森林・林業の振興に向け、役職員一同、より一層精進する所存でございますので、今後とも、倍旧のご指導、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、コロナ禍が一日も早く終息し、本年が皆様にとって幸多き一年となりますよう祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

# 新年のごあいさつ

農林中央金庫  
関東業務部長 宇都宮 正一



新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。群馬県森林組合系統役職員の皆様におかれましては、日頃より、森林・林業および森林組合系統の発展のために格別のご尽力をいただいておりますことに対し、心より敬意を表する

次第であります。また、私ども農林中央金庫の業務につきましても、平素より格別のご理解・ご協力を賜っておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、森林経営管理制度、森林環境譲与税が二年目を迎え、2021年度4月には森林組合法の一部改正を控えている中、新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、未だ今後の動向につきましては、予断を許さない状況でございます。木材価格の減少等事業面での影響に加え、全国的に研修がリモート開催となる等、働き方の観点からも、森林組合系統を取り巻く環境は大きく変革期にあります。

このような状況のなか、群馬県におかれましては、伐倒初心者講習の開設や皆伐・再造林への取組み等持続可能な森林経営に向けた取組みを、より一層強化されております。森

林組合系統におかれましても、次期森林組合系統運動に向け、地域森林の適切な保全・利用と林業経営の更なる発展のため、積極的に取り組まれております。

さらに、群馬県森林組合連合会様におかれましては、新型コロナウイルス対策の感染防止スクリーンの作成・群馬県への寄贈を実施されており、素材生産の拡大・販売力の強化に留まらず、県内森林組合系統の先頭に立って、様々な取り組みにチャレンジしておられます。

私ども農林中央金庫は森力基金事業を通じた施業集約化・高度化の取組み支援、労働安全装備品の購入に対する費用助成等を通じ、微力ながら森林組合系統の取組みをサポートさせていただいております。また、国産材利用拡大および新型コロナウイルス感染症対策を目的に、農林中央金庫としても、前橋市への感染防止スクリーンを寄贈や森林組合系統向けにWEB会議等にご利用いただけるパソコンの費用助成を実施しております。

今後もこれらの取り組みを継続し、森林・林業および森林組合系統の発展のため、精一杯尽力してまいります。

結びに、群馬県森林組合系統のますますのご発展と、皆様の一層のご健勝・ご活躍を心からご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGsの木製ピンバッジご購入のご相談をお受けしております



### SDGs (持続可能な開発目標) とは?

SDGsとは、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の頭文字から生まれた造語です。2015年の国連サミットで採択された国際目標で、持続可能な開発目標として17のゴールと169のターゲットから構成されています。

## 森林組合理事研修会 開催

去る、11月12日に「森林組合理事研修会」を前橋市の群馬県勤労福祉センターにおいて総勢65名の出席で開催した。

最初に、県森連 高橋指導部長より「森林組合における内部監査の実施について」と題し、近年増え続けている森林組合系統における不適正事案の発生をうけ、全国森林組合連合会より各都道府県の連合会及び森林組合へコンプライアンス態勢の強化と内部牽制態勢の確立が求められていることから、今回、新たな取組みとして、内部監査の導入に向け、内部監査の実施方法や監査チェックポイントなどについて説明が行われた。

次に、林野庁林政部経営課 樽谷課長補佐より「森林組合法の一部改正」、「林野庁関係予算概算請求の概要」について説明が行われた。

まず、森林組合法の一部改正については、森林組合と組合員との信頼関係を保ちつつ地域の森林整備や販売事業の拡大等を行い、経営基盤の強化を図る事ができるよう、森林組合の組織運営に係る制度の見直しとして事項があげられた。

### ①組合間の多様な連携手法の導入

森林組合等の事業譲渡、吸収分割、新設分割の制度を導入し、販売事業における販路拡大や価格交渉力の向上などマーケティング強化を通じ、山元への一層の利益還元を促進する。

### ②正組合員資格の導入

若年層や女性の参画を促進するため、同一世帯に属さない子も含めて、推定相続人が経営に参画すれば正組合員となる事ができる。また、その人数制限を設けないことで正組合員資格を拡大する。



▲研修会の様子

### ③事業の執行体制の強化

販売事業を実施する森林組合及び森林組合連合会においては、販売事業に精通した理事を配置することを義務付ける。

続いて、林野庁関係予算概算要求の概要について説明があり、森林整備や治山事業のほか、林業成長産業化総合対策の各種メニュー内容と概算要求額の説明があった。

続いて、群馬県森林環境部林政課経営管理室 黒沢室長より「次期群馬県森林・林業基本計画の策定について」と題し、現在策定中の群馬県森林・林業基本計画の策定方針について説明があり、これまでの群馬県の林業の現状と課題を踏まえた林業施策の方向性や将来ビジョンであり、事項のテーマと基本方針を盛り込んだ基本計画となるようだ。

メインテーマ「林業・木材産業の自立」

基本方針1: 林業の競争力強化

基本方針2: 森林の新たな価値の創出

基本方針3: 森林の強靭化



▲県森林環境部  
林政課経営管理室  
黒沢室長



▲全国森林組合連合会  
林政指導課  
早瀬課長

研修会最後は、全国森林組合連合会林政指導課 早瀬課長より次期森林組合系統運動についての説明が行われた。

現系統運動は今年度が5カ年計画の最終年度となっており、来年度からは新たに5年間の系統運動がスタート予定となっている。この新たな系統運動では、県森連・森林組合が「次期森林組合系統運動の基本方向」を踏まえ、県全体や森林組合単位で、10年後の夢・目指すべき姿とその実現に向けた取り組み事項・目標数値を盛り込んだ計画を策定し運動を実施していく。

取組項目としては、「都道府県・市町村と連携した地域森林管理体制の確立」「循環型林業の確立と系統の木材販売

力の強化」「高度人材の確保・育成」「協同組合としての組合員に信頼される組織体制の確立」「国民性格及びSDGsへの貢献」が挙げられると説明があった。

我々森林組合系統も5年・10年先を見据え、持続可能な林業経営を視野に系統運動に取り組んでいきたい。

## 森林経営管理法関連業務の実践状況

群馬県森林組合連合会 指導部

平成31年4月に施行された「森林経営管理法」では適切な経営委管理が行われない森林については、所有者の意向をふまえて市町村が委託をうけ経営管理を実施していくことになった。この森林経営管理法への対応は本来各市町村が(市町村林務担当職員が)同法施行の意義を理解し、主体的に取り組むべきものとされているが、市町村林務担当者には従来担当業務もあるうえに、新たに追加された森林経営管理法関連業務は新規業務ゆえの事業設計や内容適否判断の困難性もあり、一部を除きなかなか進展しないのが現状のようである。

そこで森林組合は地域森林情報に詳しく、ノウハウを活かしソフト・ハードを含め組合事業としてこれを取り入れることから、市町村にもちかけ積極的に支援していただくことをこれまでお願いしている。またこの際、基本的に各森林組合が管内市町村の支援に個別に対応していくが、必要に応じては県森連としても森林組合と合同で対応し、当業務を可能な限り森林組合系統で担うこととしている。

県森連でこれまでに森林組合から徴収した管内市町村の経営管理法への対応状況を見ると、意向調査実施、意向調査結果に応じた経営管理設定のための森林現況調査や区域測量等の事業を提案し受託している事例がある一方、市町村から具体的な相談がなく様子眺めの実態も見受けられる。

また市役所、町村役場で県庁林務や森林組合OB等を林政アドバイザーとして雇用している場合や、県環境森林事務所の経営管理専門官らが役場担当者と森林組合に主体的に指導し、打合せ会議の定期開催により事業実施内容の具体的な検討等を実践している地域ほどこの取組が進んでいるよう

である。

県森連としての市町村支援の実践については、まず令和元年度に高崎市の意向調査委託を烏川流域森林組合とともに提案し、調査票検討、個別データ入力、個別位置図作成、発送、回収、未回収者への個別訪問、報告書作成等を内容としてこれを受託した。

今年度では、この意向調査結果をふまえた経営管理権設定希望者の森林にかかる現況調査と境界測量を提案し県森連が受託、測量業務については森林組合へ再委託し実施した。この調査により対象地番ごとに経営に適するか否かを判定し経営管理権設定案を提示したところである。また同市からは今年度さらに3林班の意向調査を受託し調査報告書を提出したが、ここについてはまた次年度以降で森林現況調査および境界測量を実施していく予定となっており、経営管理法対応事業への提案と調査業務受託等のサイクルを構築しつつある。

また、安中市からも同様に森林現況調査及び境界測量業務を受託し碓氷川森林組合と共同でこれを実施している。

さらに沼田市からは市が昨年度直営で実施した意向調査結果を踏まえ、国土調査未実施林分の境界確定・測量調査も受託し、利根沼田森林組合と共同で境界確定業務のノウハウ構築に努めているところである。

この他にいくつかの市町村からも森林組合を通じて相談があり、それぞれの地域・実情に応じた経営管理法への対応案を提案している。

今後も進捗の遅れている市町村には改めて森林組合系統から相談をもちかけ、進まない課題を整理し実行案を提案して

森林とともに80年

# 森林保険

台風や集中豪雨、火災など万が一の災害に備えることができます。

森林保険は、「森林保険法」(昭和12年法律第25号)等に基づき、森林所有者を被保険者として、森林についての火災、気象災、噴火災による損害を総合的に補償するものです。森林所有者が自ら災害に備える唯一のセーフティネットです。

〈保険金のお支払いの対象となる8つの災害〉

火災	風害	水害	雪害
干害	凍害	潮害	噴火災

お問い合わせは、お近くの森林組合、または森林組合連合会へ

群馬県森林組合連合会：〒379-2153 群馬県前橋市上大島町182-20  
TEL：027-261-0615 FAX：027-261-0697

いきたいと検討しており、基本的には各森林組合が管轄市町村に対応していただきたいが、必要に応じて県森連は積極的にこれをサポートしていく方針である。

経営管理法対応については、それぞれの市町村事情(資源と人材)に応じた臨機応変な支援体制が効果的であり、

一部先進県で実施されている技術力・機動力をもち県全体を包括的にカバーできる実務サポートセンターの設置等も視野に、時代の流れニーズを真面に捉えた業務執行体制も整備していきたいと考えている。

## 令和2年度 人材育成・定着支援研修 開催

新型コロナウイルス感染拡大への懸念等あったが、今年度も昨年度と同様に、『雇用主・雇用管理者向け研修』及び『OJT指導者研修』の2種が前者は11月4日の半日、後者は11月5日、6日、18日、19日の4日間で開催された。この研修は雇用主、雇用管理者やOJT指導者を対象にしており、各事業体に雇用されている新規就業者や若手現場技能者が能力を最大限に発揮し、やりがいや将来への期待をもって働けるよう、人材育成に関するスキルを学び意識改革することで、将来を担う現場技能者が誇りをもって働くことが出来る人材育成研修を内容としている。また Woodsman Workshop LLC代表の水野雅夫氏を講師としてお迎えするの今年度で4年目を迎え、過去に受講いただいた方からも高評価を頂いている研修である。



▲雇用主・雇用管理者向け研修の様子

となった。今年度は6事業体7名の参加で行われた。4日間の研修内容は以下の通りである。

### 《研修1日目》

「労災について知る」、「指導者の役割と責任」、「現場指導の留意点」などのテーマに講師から講義があり、労災に関する動画映像を見ながらリスクアセスメント実施、また、新規就業者へのチェーンソー伐倒の際の「受け口と追い口による伐倒の図解」説明発表など行われ、研修生は図解説明に苦慮していた。

午後には伐倒練習機がある場所まで移動し、受講者1人1人による以下の実習が行われた。

- ・基礎作業のCheck&Clinic(伐倒の際の受け口作成)として、1つ1つの動作確認を『指矩』『レーザーポインター』『iPad』の3つの道具を使って現時点での研修生全員の技術レベル確認を行った。研修生による受け口作成や伐倒目標への正確性の精度は決して高いものではなかった。

### 《研修2日目》

1日目の講義からの継続で「どのように指導するのか?」、「コミュニケーション」、「コーチングマジック」など、より具体的な新規就業者への対応手法等の講義があった。

午後からは「新規就業者に伐倒させるまでの10 steps Method」と題して、まず、step1の「ひたすらスライス」を研修生全員行った。これは、ガイドバーの先上がり(先下がり)角度、及び進行方向への勾配角度を水平に切り込むための訓練であり、伐倒作業を行う上でも最も基本的な動作であ



▲水野講師



▲高山課長

### 【雇用主・雇用管理者向け研修】

県内認定事業体から16事業体、受講者22名で群馬県生涯学習センターにて開催された。群馬県内の労災現況や労災減少に向けた対策方法、経営者の安全衛生に対する方針改善の必要性などの内容が講演された。

### 【OJT指導者研修】

講師である水野氏が開発企画に携わり考案された『伐倒練習機 Felling Trainer MTW-01』が今年度群馬県立農林大学校に導入され、初めてこの伐倒練習機を活用しての研修が開催された。この導入により過去の研修では山林現場まで車で移動し現場研修を行ってきたが、大幅な移動時間の削減が可能となりより研修内容の充実を図ることが可能



▲講義の様子

ることは言うまでもない。また、ここからは新規就業者に対してコーチングとして、チェーンソー作業の精度をどのようにして高めていくかの『指導の実践』を1人1人行った。

### 《研修3日目》

研修2日目からの継続で、終日実習による『指導の実践』をsteps2「斜め切り水平フィニッシュ」及びsteps3「水平出し入れ」の両訓練を通じて行った。前者訓練は、受け口の斜め切りを想定した訓練で、切り終えを水平に出来るかの計測を行うものであり、後者は水平にガイドバーが隠れる程度まで切り込み、立ち位置は変えずチェーンブレイキをかけエンジンを停止し、ガイドバーを引き抜く。抜いたらエンジンは止めたまま再び切込みに入れ、出し入れを繰り返す訓練である。



▲実習の様子

特にsteps3は研修生自身も難易度が高かったらしくスムーズな動作ができた研修生はいなかった。また、『指導の実践』では教えることの難しさがより一段と増し、かなりの時間を要した。

### 《研修4日目》

最終日の最初は研修生全員による、講師執筆文献を読んだ感想発表が行われた。研修生からは体験談を交えての新人教育への熱い思い等が語られた。

その後は本研修の真髄でもある、「作業の分解と再構築」(切り捨て間伐編)としてワークショップが行われた。これは森林整備の切り捨て間伐作業の動作内容等を細分化し、時系列に整理する事で意味や目的を理解するといった内容である。今回の研修では、最終作成目標であった『安全と効率を両立させるための課題抽出』や『具体的な改善策共有(約束)』までの議論は時間内で到達することは出来なかった。

研修終了後のアンケート調査では、「ワークショップでの普段何気なく行っている作業を言語化することの難しさが分かった」、「指導者側の押し付けにならないように新人側に寄り添った指導を心掛ける」などといった意見があった。



▲ワークショップ

**森林に優しい**

**チェーンソー専用オイル**

**植物油生分解性オイル**

**YSバイオチェーンオイル**

特許 第3513132号

**服に付いた油汚れが洗剤で落とせる抜群のスペリでチェンやバーの摩耗を防ぐ**  
 荷姿/4Lポリ・18L缶(オールシーズンタイプ) ※エンジンオイル・食用油としては、使用できません。

## 群馬県森林組合職員連盟 第71回定時総会 開催

去る令和2年11月13日、県森連会館研修室にて群馬県森林組合職員連盟第71回定時総会が開催された。例年であれば、多くの会員に出席いただき審議していただくが、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面議決にて実施した。

提出議案は、第1号議案『令和元年度事業報告ならびに収支決算の承認について』、第2号議案『令和2年度事業計画ならびに収支予算案の承認について』となり、賛成多数により原案通り可決された。

書面議決は初めての試みのため会員の皆様にはご不便をおかけしたものの、皆様のご協力のおかげで定時総会を無事に終了することが出来た。

未だに、新型コロナウイルスの感染が収束していないが、十分な感染予防に努めるとともに、視察研修の開催や森林組合系統で働く職員間の交流を深め、情報交換を密にし、熱意と能力のある職員の育成に取組み、働きがいのある活気に満ちた職場づくりの推進を目指していきたい。

## 「森林の仕事ガイダンス」東京&群馬で開催

「森林の仕事ガイダンス」が11月3日(火)東京都千代田区の東京国際フォーラムにて開催された。

今回のガイダンスでは新型コロナウイルス感染防止対策として来場者は事前予約制で行われ、午前午後の入替えを回り2部制をとるなどのほか、入口では消毒、検温、各相談ブースでも消毒・清掃など様々なコロナ感染対策が行われた。また、受付や相談ブース等にはぐんまちゃんの焼き印のある群馬県産のスギを使った飛沫感染防止スクリーンが設置され、群馬県産材のPRにもなっていた。

ガイダンスでは全国森林組合連合会・都道府県・ハローワークブースでの森林の仕事内容や就業相談等が行われた。また、パネル展示の前には多くの来場者が足を止め興味深く見入っている姿も見られた。群馬県ブースを訪れた相談者は群馬県の林業の現状や、就業体験のできる「ぐんま林業就業支援研修(県主催)」や林業就業について説明を受けた。相談者は27人(うち女性3人)平均年齢は36歳だった。

また、県内の「群馬森林の仕事ガイダンス」は、本会主催で12月12日(土)に前橋市古市町のホテルラシーネ前橋で開催した。ガイダンス会場では、東京ガイダンス同様に新型コロナウイルス感染防止対策に万全を期した。群馬県林業振興課、林業労働力確保支援センターの協力のもと、森林、林業に興味のある方へ、「緑の雇用」事業内容説明や「ぐんま林業就業支援研修」のPR、林業就業についての説明をした。相談者からは「林業に興味があるが未経験なので就業体験のできる、ぐんま林業就業支援研修の参加を検討したい」、「高齢なので就業は無理だと思うのでボランティア活

動に参加するにはどこに相談したらいいか」と言った相談があった。相談者は県内外から32名(うち女性5人)平均年齢45歳だった。

今回新型コロナウイルスの影響で、相談者数が減少すると思われるが前年並みとなった。また、離職中の相談者の割合が例年より多く、相談者は皆、熱心に相談され内容の濃いガイダンスとなった。



▲東京ガイダンス

## 優良素材展示会 開催

去る12月2日(水)に恒例となっている群馬県優良素材展示会が前橋木材共販所で開催された。

今回はスギ、ヒノキ、カラマツ計23点が出品され事前に行われた審査会の結果、赤城南麓森林組出品のスギ4m、32~48cmが最優秀賞(林野庁長官賞、群馬県知事賞)に輝いた。

午前中に表彰式が行われ午後開催された市では入賞した素材を中心に軒並み高値で落札された。

入賞者は次のとおりである。

◇最優秀賞(林野庁長官賞) 小堀勝美  
(群馬県知事賞) 尾池勲

◇優秀賞(関東森林管理局長賞)  
下仁田町森林組合・佳純林業株式会社

◇優良賞(群馬県森林組合連合会長賞)  
利根沼田森林組合・桐生広域森林組合・平形寿孝

◇技能賞(群馬県木材組合連合会長賞)  
田村多五郎・塩浦木材・片品村森林組合

◇努力賞(群馬県林業改良普及協会会長賞)  
南牧村森林組合・鎗川東部森林組合・榛名興産



▲式典の様子



▲群馬県知事賞



▲表彰の様子

## 高性能林業機械 レンタルします

● レンタルのニッケン



ザウルスロボ

フォワード

プロセッサ

グラップル

ハーベスタ

## 県立農林大学校創立100周年 チェーンソーを寄贈

群馬県森林組合連合会(八木原勇治代表理事組合長)は群馬県立農林大学校(桑原雅美校長)にチェーンソー20台を贈りました。

7月28日農林大学校森林コースの学生が出席して受納式が開かれましたので紹介します。

農林大学校創立100周年を記念して、林業への就職を目指す学生の技術と安全の向上に資するため贈られたチェーンソーは新ダイワE2038SR(38CC) 20台。

県森連は、森林組合とともに校外学習や体験学習の受け入れを行い、多くの学生の就職先となっている。

式典で八木原会長は「我々森林組合系統は、森林・林業の活性化のために、森林に関する多種多様な事業を実施しており、この農林大学校からも多くの卒業生が活躍している。皆さんが群馬県の森林・林業の担い手として活躍されるよう心よりお祈り申し上げます。」とあいさつ、続いて学生を代表して2年生の鈴木理久さんが「一人ひとり密度の高い実習に取り組むことができる。大切にに使わせていただき後輩に引き継いでいく。」また、桑原校長は「徹底的な安全作業の習得、操作技術の技能向上のための実践教育で使わせていただく。今後とも意欲あふれる農林業の担い手を育成し

ていきたい。」とそれぞれ述べた。

同校は1920年設立、農業技術員養成所から始まり、1983年に県立農林大学校として発足した。長い歴史のなかで卒業生は1万人以上に上り森林関係では、県や森林組合のほか、第一線の林業事業体の職員としても多く活躍している。



▲チェーンソー寄贈

### あとがき

新年明けましておめでとうございます

さて昨年を振り返ると、新型コロナウイルスの影響で東京オリンピックの延期や様々なイベントが中止になり今までにない新しい生活スタイルを実践してきたところですが、未だ終息する見通しがないため引き続き感染対策をとりながら過ごしていきたいと思います。

今年の干支「丑」は、十二支の2番目で子年に蒔いた種が芽を出して成長する時期とされています。丑年には、先を急がず目のことを着実に進めることが将来の成功につながっていくといわれています。

私自身も先を急がず、今は着実に物事を進めていきたいと思います。

最後に一日も早くコロナ禍が終息し、以前のような日常が戻ることを願うばかりです。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。



(山下)